

アオダイショウ



6月10日のアオダイショウ

2014年**6月10日**（火）16時、生物準備室に事務室から緊迫した口調の電話がかかってきた。「先生。公使室前にヘビがいるんです。何とかしてください。」「……ヘビですか。今いきます。」毎年、この時期になると不思議にヘビの目撃情報が寄せられる。そして、ヘビの正体は、100%、**アオダイショウ**である。教育実習生の名村君が網で捕獲し、クスノキの近くの樹木の前で放すと、スルスルと樹の裂け目に入っていった。

アオダイショウは、本県において人家付近で最もよく見られるヘビである。栃木県のレッドデータブックには「**要注目**」種として記載されている。目撃情報はあつものの「**減っている**」のだ。アオダイショウは、カエルやトカゲなどの小動物をエサとしており、毒はもっていない。人を襲うこともなく**おとなしいヘビ**である。決して、人に害を与えることはない。

ところが、**6月13日**（金）16時。再び、生徒達によってアオダイショウが持ち込まれた。清掃中に田中先生によって捕獲されたということらしい。姿形や大きさ、体の模様などを見ると、10日に捕獲されたものと**同一個体**のようだ。これは、偶然と言えば偶然だが、実は、アオダイショウは1個体しか確認されていないことになる。佐高の校庭に生息しているアオダイショウの個体数は、そう多くはないのかもしれない。



↑ 6月10日の捕獲



↑ 6月13日の捕獲（この後、放しました）



6月13日のアオダイショウ